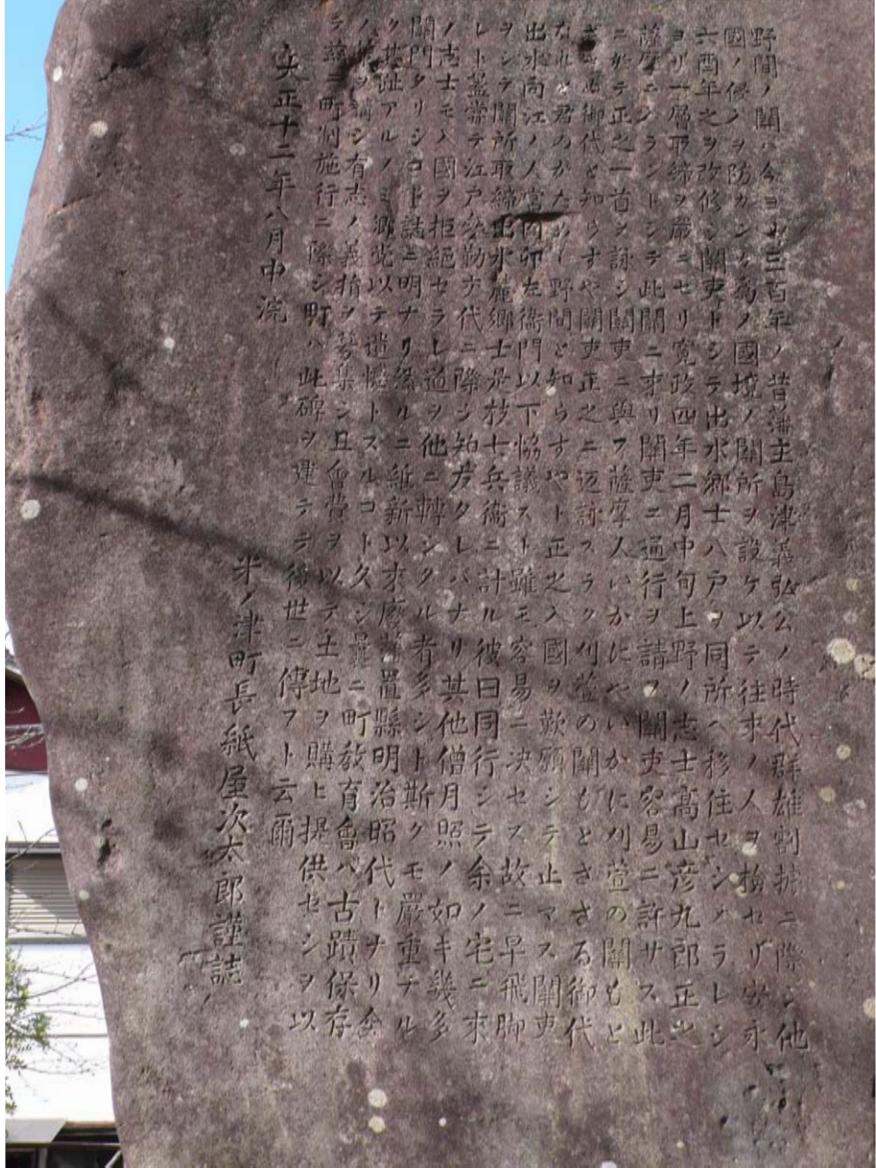




野間の関趾 石碑



野間の関趾 碑文

野間ノ関、今ヨリ三百年ノ昔、藩主島津義弘公ノ時代、群雄割拠ニ際シ、他  
 國ノ侵シテ防カント爲メ、國境ノ關所ヲ設ケテ以テ往來ノ人ヲ檢セリ、安永  
 六四年之ヲ改修シ、關吏トシテ出、水郷士八戸ヲ同所ニ移住セシメ、ラレシ  
 ヲリ、一層平練ヲ嚴ニセリ、寛政四年二月中旬、上野ノ志士高山彦九郎正之  
 諱、一ノラントシテ、此關ニオリ、關吏ニ通行ヲ請フ、關吏容易ニ許サス、此  
 ニ於テ、正之、一首ノ詠シ、關吏ニ與フ、薩摩人イカニハ、かた列、登の關也、と  
 言フ、關吏、御代ト知リ、オヤ、野間ト知らず、或ト正之、入國ヲ歎願シテ止マ、關吏  
 出、水郷江ノ入宮内、左衛門以下、協議ス、ト雖モ、容易ニ決セ、故ニ早飛脚  
 ラシテ、關所取締、水郷郷士、是、杖十、兵衛ニ計ル、彼曰、同行シテ、余ノ宅ニ、末  
 ノ志士モ、入國ヲ拒絶セ、ラレ、道ヲ他ニ、轉シ、クル者多シ、ト斯クモ、嚴重ナル  
 ク、其証アルノミ、郷吏、以テ、遺體トスルコト、久シ、置、縣明治、昭代トナリ、余  
 ノ、關所、一ノラシ、有、志、義、持、テ、募、集、シ、且、會、費、ヲ、以、テ、土、地、ヲ、購、ヒ、提、供、セ、シ、ヲ、以  
 安永十二年八月中流、  
 米ノ津町長紙屋次太郎謹誌

## 碑文

野間ノ關ハ今ヨリ三百年ノ昔藩主島津義弘公ノ時代群雄割據ニ際シ他國ノ侵入ヲ防カンカ為メ國境ノ關所ヲ設ケ以テ往來ノ人ヲ檢セリ安永六四年之ヲ改修シ關吏トシテ出水郷士八戸ヲ同所ヘ移住セシメラレシヨリ一層取締ヲ嚴ニセリ寛政四年二月中旬上野ノ志士高山彦九郎正之薩摩ニ入ラントシテ此關ニ來リ關吏ニ通行ヲ請フ關吏容易ニ許サス此ニ於テ正之一首ヲ詠シ關吏ニ與フ薩摩人いかにやいかに刈萱の關もとざさぬ御代と知らすや關吏正之ニ返詠スラク刈萱の關もとささる御代なれと君のかためし野間と知らすやト正之入國ヲ歎願シテ止マス關吏出水向江ノ人宮内卯左衛門以下協議スト雖モ容易ニ決セス故ニ早飛脚ヲシテ關所取締出水麓郷士是枝七兵衛ニ計ル彼曰同行シテ余ノ宅ニ來レト蓋嘗テ江戸參勤交代ニ際シ知友タレバナリ其他僧月照ノ如キ幾多ノ志士モ入國ヲ拒絶セラレ道ヲ他ニ轉シタル者多シト斯クモ嚴重ナル關門タリシコト誌ニ明ナリ然ルニ維新以來廢藩置縣明治昭代トナリ全ク其趾アルノミ郷党以テ遺憾トスルコト久シ曩(サキ)ニ町教育會ハ古蹟保存ノ策ヲ講シ有志ノ義捐ヲ募集シ且會費ヲ以テ土地ヲ購ヒ提供セシヲ以テ茲ニ町制施行ニ際シ町八此碑ヲ建テテ後世ニ伝フト云爾

大正十二年八月中浣

米ノ津町長紙屋次太郎謹誌

## 碑の表

## 野間之関趾

元帥海軍大将伯爵東郷平八郎書